



野村ブラックロック世界優良企業厳選ファンド

Aコース (米ドル売り円買い) / Bコース (為替ヘッジなし)
 追加型投信 / 内外 / 株式

足元の投資環境と当ファンドの魅力

平素より「野村ブラックロック世界優良企業厳選ファンド」(以下、ファンドといいます。)をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。足元の投資環境を踏まえた当ファンドの魅力についてご説明いたします。

高水準で推移してきた米国長期金利

米国においては、インフレ率の上昇等を背景に、2022年3月から2023年7月にかけて断続的に利上げが行なわれ、急速な利上げを受けて米国長期金利(10年国債利回り)は2022年3月から2023年10月にかけて上昇基調で推移しました。

その後、2024年9月にはインフレ率の鈍化を背景に0.5%の利下げが決定される等、長期金利の水準はピーク時からは低下したものの、2024年10月23日の水準は4.2%と、過去20年超の期間で見ても比較的高い水準にあります。

今後の継続的な利下げが株式市場を後押し

右上のグラフにある通り、長期金利は政策金利の動向に影響を受ける傾向があり、今後の長期金利の動向の予想には、政策金利の見通しが重要となります。

右下のグラフは短期金融市場が予想するFF(フェデラルファンド)金利の見通しですが、市場では今後も米国で利下げが継続して行なわれると予想されています。また、利下げが開始されているのは米国だけではなく、ユーロ圏では2024年6月・9月・10月、イギリスでも2024年8月に利下げが行なわれています。

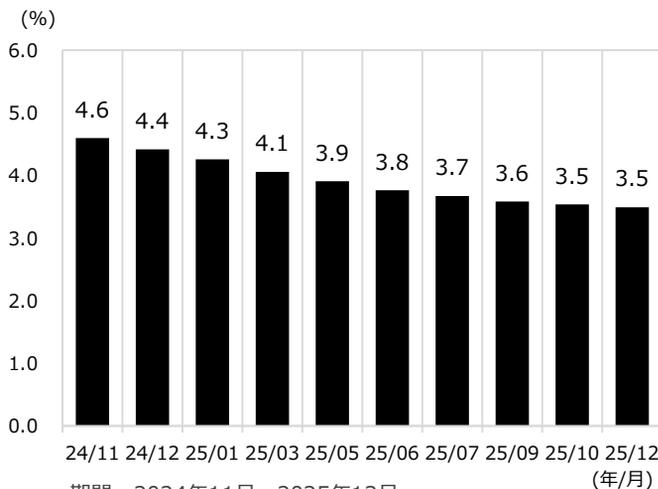
世界的な利下げの動きは株式市場を後押しする材料であると考えられ、株式投資の追い風になると期待されます。

米国の政策金利と10年国債利回りの推移



■ 最後の利上げから最後の利下げまでの期間 (直近は10月23日まで)
 期間: 1999年12月31日~2024年10月23日、日次
 ・米国政策金利はFF金利の誘導目標または同レンジの中央値
 ・米国10年国債利回りは、ブルームバーグ・ジェネリック
 (出所) ブルームバーグを基に野村アセットマネジメント作成

短期金融市場が予想するFF金利の見通し



期間: 2024年11月~2025年12月
 ・各月の値は先物市場から算出した各FOMC(米連邦公開市場委員会)終了後時点の金利予想(2024年10月23日時点)
 (出所) ブルームバーグを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

金利低下局面で優れたパフォーマンスの成長株

前述の通り利下げを背景に米国長期金利の低下が予想されますが、当該投資環境は成長株に対して相対的に良好なパフォーマンスをもたらすことが期待されます。右上のグラフは、2013年10月末から2024年9月末の各月末時点（計120時点）における①過去12か月間の米国10年国債利回りの変化幅（横軸）と、②過去12か月間の世界成長株指数の世界株指数に対する超過リターン（騰落率差、縦軸）の関係性を示したグラフです。過去、金利低下局面においては、成長株指数のパフォーマンスは世界株を上回る傾向がありました。

高成長企業への投資は銘柄の厳選が重要

今後、米国長期金利の低下を想定した場合、成長株投資には相対的に良好なパフォーマンスが期待できますが、一定の水準を超えてビジネスを拡大させている企業の割合は長期的に減少傾向にあります。右下のグラフは世界株指数における高成長企業の割合の推移を示しています。ここでは、3期先売上成長予測が年率8%以上の企業を高成長企業と定義していますが、その割合は、1990年代に比べ半分程度まで低下しており、高い成長性を示す企業への投資は銘柄を厳選することが重要と考えられます。

高い成長が見込める「最高の銘柄」へ厳選投資

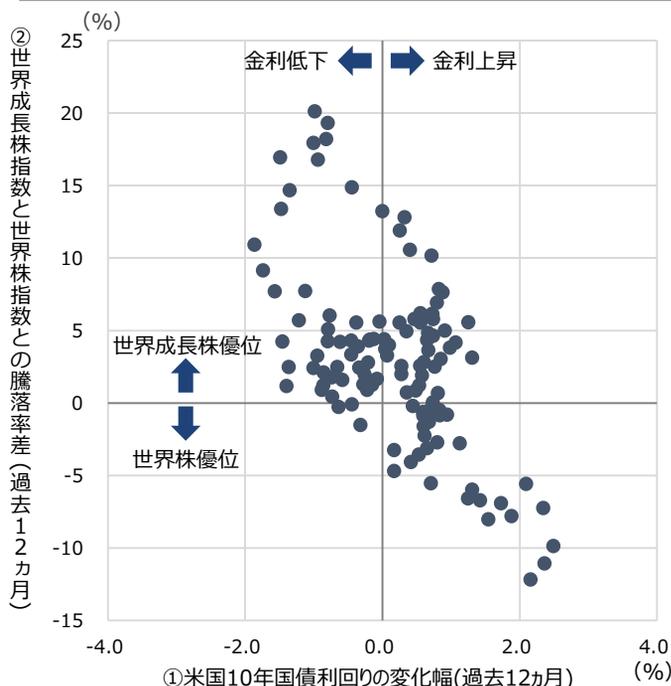
当ファンドは、4つの基準※の評価が高い銘柄群から選定された「最高の銘柄」に厳選投資します。「最高の銘柄」は、「構造的な優位性」、具体的には市場の成長性を取り込み、高い成長が見込めるという特性を有していることから、足元や今後想定される金利低下局面においても、「最高の銘柄」への厳選投資アプローチは有効となりうると考えております。

※ 「強力なマーケットポジション」「圧倒的な利益創出力」「構造的な優位性」「卓越した経営陣」の4つ。

上記はブラックロックの運用チームの2024年10月時点の見解であり今後変更される場合があります。過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

米国10年国債利回りの変化と
世界成長株指数・世界株指数の騰落率差（米ドルベース）比較



期間：2013年10月末～2024年9月末、月次
 ・世界成長株指数はMSCI World Growth Net Total Return USD Index、世界株指数はMSCI World Net Total Return USD Index
 ・米国10年国債利回りは、ブルームバーグ・ジェネリック
 （出所）ブルームバーグを基に野村アセットマネジメント作成

世界株指数における高成長企業の割合の推移



期間：1996年12月末～2023年12月末、月次
 ・MSCI World Indexの中から“3期先売上成長予測”が取得できる企業を抽出し、成長率が年率8%以上の企業を高成長企業と定義し、その割合を算出。
 （出所）Datastream、Goldman Sachs Global Investment Researchのデータを基にブラックロック作成

MSCI World Growth IndexおよびMSCI World IndexはMSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

ファンドの特色

1

世界各国(新興国を含みます。)の株式(DR(預託証券)^{※1}を含みます。)を実質的な主要投資対象^{※2}とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

◆ 外国投資法人である「ブラックロック・ファンズ I・ICAV - ブラックロック・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド」および国内投資信託「野村マネー マザーファンド」を投資対象とします。

「ブラックロック・ファンズ I・ICAV - ブラックロック・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド」の主な投資方針

- 新興国を含む世界各国の企業の株式を主要取引対象とし、信託財産の長期的な成長を目標に運用を行なうことを基本に、長期的な値上がりが見込める企業の株式を厳選し投資を行ないます。
- 株式への投資にあたっては、競争優位性、構造的変化のインパクト、経営陣の質、財務規律などに着目します。

2

ファンドは投資する外国投資法人において、米ドル売り円買いの為替取引を行なう「Aコース」と対円での為替ヘッジを行なわない「Bコース」から構成されています。また、「Aコース」「Bコース」間でスイッチングが可能です。

ファンド名	投資対象とする外国投資法人の円建ての外国投資証券
Aコース (米ドル売り円買い ^{※3})	ブラックロック・ファンズ I・ICAV - ブラックロック・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド- クラスXヘッジ(円建て) ^{※4}
Bコース (為替ヘッジなし)	ブラックロック・ファンズ I・ICAV - ブラックロック・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド- クラスX(円建て)

※1 Depositary Receipt (預託証券) の略で、ある国の株式発行会社の株式を海外で流通させるために、その会社の株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券をいいます。DRは、株式と同様に金融商品取引所などで取引されます。

※2 「実質的な主要投資対象」とは、外国投資法人や「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。

※3 Aコースにおける「米ドル売り円買い」とは、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行なうことをいいます。

※4 当面の間、ブラックロック・ファンズ I・ICAV - ブラックロック・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド- クラスXヘッジ (円建て) の外国投資証券に投資を行ないますが、為替リスクの低減をより効率的に行なう事を目的として、同ファンドの投資対象クラスの変更を行なう場合があります。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

当ファンドの投資リスク ファンドのリスクは下記に限定されません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

各ファンドは、外国投資証券等への投資を通じて、株式等に実質的に投資する効果を有しますので、当該株式の価格下落や、当該株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

